

これからの評価を考える

Q 1 学習評価は、何のためにするのか？

A 1 教育がその目標に照らしてどのように行われ、児童生徒がその目標の実現に向けてどのように変容しているかを明らかにし、また、どのような点でつまずき、それを改善するためにどのように指導・支援していけばよいかを明らかにしようとする目的で行います。

Q 2 「これからの学力」を、どうとらえたいのか？

A 2 知識の量のみでとらえるのではなく、学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容を確実に身に付けることはもとより、それにとどまることなく、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」がはぐくまれているかどうかをとらえる必要があります。

Q 3 「これからの評価」は、どうあるべきか？
- 小・中学校 -

A 3 観点別学習状況の評価を基本とした現行の評価方法を発展させて、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）を一層重視するとともに、児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを評価するため、個人内評価を工夫することが重要です。

Q 4 評価をする際に大切なことは何か？

A 4 指導と評価の一体化を図るとともに、学習指導の過程における評価の工夫を進めることが重要です。また、評価が児童生徒の学習の改善に生かされるよう、日常的に児童生徒や保護者に学習の評価を十分に説明していくことも大切です。

Q 5 児童生徒の個人の学習状況等の評価で、留意することは、どんなことか？

A 5 知識の量のみを測るような評価が行われることのないよう注意しましょう。基礎・基本を重視し、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの育成とともに、児童生徒のよさや進歩の状況などを積極的に評価し、児童生徒の可能性を伸ばすことを重視した「新しい学力観」に立つ評価をすることが大切です。

Q 6 国としての児童生徒の学力の実態把握は、これまでどのようになされてきたか？
また、課題は何か？ - 小・中学校 -

A 6 「教育課程実施状況調査」（昭和56-58年度、平成5-7年度）や国際教育到達度評価学会（IEA）の「国際数学・理科教育調査」（昭和39-）は、これまで十数年に1回という間隔で実施され、全国的な学習状況の把握や国際比較による学習状況の把握を行ってきました。

今後は、国として継続的に児童生徒の学力の実態を把握するための方策や、各学校が全国的・総合的な学力調査により自校の児童生徒の学習状況を客観的に評価できるようにするための方策を検討することが課題です。

文部科学省『児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について（答申）』2000年をまとめたものです。

「自分の考え」を大切にした理科学習

～学習カード（ノート）の記述を指導に生かす～

所属 牟田 正徳



1 はじめに

理科の学習は、児童がそれまでの生活経験や学習によって得た自分独自の見方や考え方を観察、実験などの活動を通して、科学的なものに変容させていく営みです。そのためには、児童一人一人の素朴な見方や考え方を把握しながら（評価）、事象の提示、アドバイスや賞賛など（指導）を行っていくことが大切なことだと思います。授業中においては、発言・つぶやき・ノート記述・探究活動の様子・表情などから児童の考えを把握することができます。本稿では5年単元「ふりこの動きとおもりのはたらき」における学習カード（ノート）を使って、「自分の考え」を意識させ、その考えを把握しながら進めていく指導方法の一例を紹介します。

2 指導の実際

「ふりこの周期を変える条件は何か」を調べた児童の学習カードと指導の流れ

糸の長さ	13.40	13.51	13.16	13.75
糸の重さ	12.67	12.56	12.80	

学習問題をつかむことができているか評価します。つかむことができない場合は、具体物を用いて助言します。

予想を立てることができているか、その根拠として日常生活でのどんな事象や既習事項と関連付けて考えているのか評価します。ここが、子どもの考えを把握するスタートとなります。

実験結果の記録がきちんと書けているか、うまく結果が出ているか評価し、方法や記録の仕方を助言します。

見通し（問題、予想・仮説、確かめるための方法）をもつことができているか評価し助言します。本時では、制御する条件を確認します。

結果から自分の考えを導き出せているか評価します。説のような言葉を考えてみるよう促すのもおもしろいですよ。

自分の考えが承認されるかどうか、同じことを調べた友達と話し合いをさせ、相互評価を行わせました。相手にうまく伝わるように具体物を見せながら説明するよう促します。

話し合い後の最終的な考えを評価し、次時に生かします。

3 おわりに

「ふりこの動きとおもりのはたらき」は今年度より課題選択学習となりました。一人の教師で、多様な活動にどう対応していくか、活動に行き詰まったり、無目的に実験を行ったりしている児童にどう指導していくか悩むところだと思います。今回紹介したように、発言や行動観察だけでなく、学習カード（ノート）を授業中に数回評価しながら助言していくことは有効な手立ての一つとなります。そのためにもノート記述に関する指導を年間通して行っていく必要があります。生きる力の充実が求められている現在、「自分の考え」を常に意識させながら問題の追究をさせることにより、知識・理解の習得だけでなく、「自分の考え」を導き出せる力』を養っていけるような理科の授業が大切になってくると思います。

学習過程における支援を大切に

- 英語が苦手な子どもたちのために -

所員 吉原 雅博



はじめに

日ごろ、英語が分からなくて悩んでいる生徒にとって「分からなかったことが分かった」、「できなかったことができるようになった」ときほど嬉しいことはないはずですが。その喜びを味わわせるために私たちができることは何でしょうか？

習熟度に応じた指導

平成12年度に教育センターで実施した「読むこと」「書くこと」に関する実態調査によれば、英語を苦手とする生徒が「英文を読んだり、自分の考えを英語で表現したりするときに困ること」として

英文の作り方が分からない(78%)
単語が分からない(70%)
自分の言いたい内容をうまく書いて表現できない(68%)

等を挙げています。これらの悩みの解決方法としては、生徒への手立てが必要で、

生徒一人一人の習熟度に応じた指導

もその一つです。

ここでは、「伝言メモ」を書くタスクを課す場合を例に取り、英語が苦手な生徒への支援の在り方を考えてみました。生徒が最終タスクに到達するまでの過程をいくつかのステップに分け、それぞれの過程で次のような支援を行います。

【活動の過程】

時間や場所など、伝える要点を日本語でまとめる。

- ・相手は何を知りたいかな？(助言)
- ・場所はどこ？(助言)
- ・各項目が出そろったね。(賞賛)

それぞれを日本語の文にする。

- ・相手にわかりやすい文にしよう。(助言)
- ・文が完成したね。(賞賛)
- ・他に付け加える文はないかな？(助言)

英文に直すのに必要な単語を列記する。

- ・辞書を引いてごらん。(助言)
- ・ という単語が使えるよ。(助言)
- ・日本語の に当たる単語がないね。(助言)
- ・この単語、よく覚えていたね。(賞賛)
- ・教科書の ページを見てごらん。(助言)

単語を並べて文にする。

- ・ という表現は を使えばいいよ。(助言)
- ・この文のおかしいところに気付くかな？(助言)
- ・語順はこれでいいかな？(助言)
- ・これで正しい文になったよ。(賞賛)

伝言メモを清書する。



- ・メモが出来上がったね！(賞賛)

生徒が途中で落胆することなく、次のステップへ到達しやすいうように、難度を徐々に上げる配慮も重要です。また、支援に当たっては、各生徒の現段階での実力を十分踏まえた上で、自己評価や個人内評価を生かしながら、その生徒の成長や上達を生徒と共に確認しながら進めていくことが大切だと思います。さらに、必要に応じて、ペア学習やグループ学習を取り入れることも、成就感や達成感を味わわせ、学習意欲を継続させる上で効果的です。

おわりに

苦悩する道のりを我々教師と一緒に登ってやることでできれば子どもたちも勇気付けられ、途中であきらめることもないでしょう。生徒と共に、また一段階上来たことを確認し、喜び合いながら進んで行きたいものです。

商業科目「文書デザイン」における自己評価の観点を身に付けさせる学習過程について

所員 池田 勝



1 はじめに

平成15年度からの新学習指導要領の改訂に伴い、商業科の新科目として、これまでの「文書処理」が「文書デザイン」に代わり、単元には、これまではなかった「プレゼンテーション」が加わりました。

そこで、この単元の目標を達成し、評価手段の一つとして自己評価を行う場合の学習の進め方を紹介したいと思います。

2 学習指導計画

プレゼンテーションに関する単元のためにこの科目を2ないし3単位と想定して、そのうちの25時間を使って全体の計画を立てました。

評価は、教師のチェック・リストや生徒の相互評価、自己評価で行いますが、生徒が評価をするに当たっては、評価する力を評価項目ごとに段階的に身に付けさせ、的確に評価ができるように工夫し、プレゼンテーション能力に必要な項目と関連付けました(図1)。

単元計画 「表現して伝えよう」～プレゼンテーション名人になる～			
次時	小単元の過程	学習の内容(理論および演習)	指導上の留意点
			身に付けさせる評価の観点
第一	2	キャッチフレーズを考えよう □文章表現についての効果を学習する(理論) □印象の与え方に合う文章や表現の学習をする(理論) ■キャッチフレーズ制作(演習) (1)-7、(5)-7	文章表現 言語の効果 ① ⑧
第二	2	情報を収集する □情報の収集方法(理論) □インターネットの使い方を習得する(理論) ■□アンケートやインタビューの方法について習得する(理論・演習) (5)-7イ	適切な情報収集力と手段であるか ② ⑥
第三	3	情報を分析する(効果的な情報表示) ■文章作成や表計算ソフトなど、情報をまとめる、分析したりするソフトの技法を習得する。(Excel Word等の使い方) (演習) □情報の効果的な表現方法を習得する。(理論・演習) (2)-7イ	図形やグラフについての効果的な表現や適切な表現 ③ ⑥
第四	2	発表の方法(自己紹介してみよう) □発表の技法を身に付ける(話し方や態度について) (理論) ■例題の条件に沿って自己紹介を行う (演習) (5)-7イ	発表の態度 ④
第五	5	プレゼンテーション制作 ■プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使い方を習得する(演習) ■例題や問題からプレゼンテーションを制作する。(演習) (5)-イ	ソフトおよびマルチメディアの効果的な活用 全てのスキル
第六	3	プレゼンテーションの発表と評価 □学習してきた評価の観点についてのまとめ(理論) ■発表して相互評価を行う。(演習) (1)-イ	総合的な評価 ⑤
第七	4	ビデオ編集 自己評価と改善 ■ビデオ編集と配信に関する技法を習得する(演習) □制作した自分(知)の自己評価を行う(演習) (5)-7イ	総合的な評価 ⑥
第八	4	情報を発信する(Webによる発信) ■Web作成ツールの使い方を習得する(演習) □Web発信時の決まりごとやマナーについての学習(理論) (5)-7イ	⑥

図1 単元指導計画(抜粋)

3 指導の実際(佐賀商業高等学校 情報処理科)

指導計画の第6次までに、プレゼンテーション技法の必要な項目について、それぞれ問題解決過程と同様のステップをとりました(図2)。

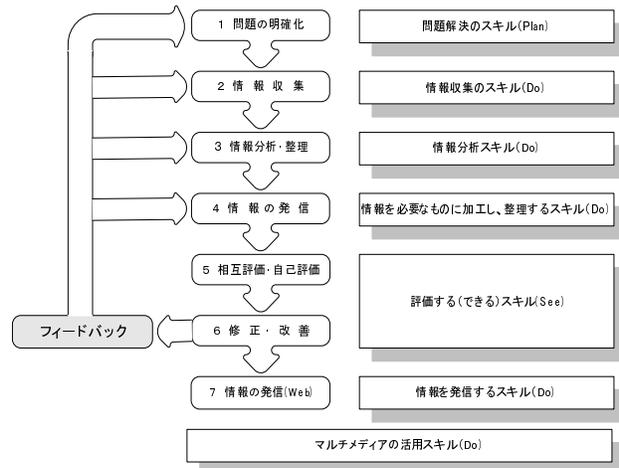


図2 問題解決のステップ(抜粋)

そして、第6次に、例題を使ったプレゼンテーションの発表を行い、生徒による自己評価や相互評価を、評価シートを使って行います(図3)。小単元を細分化して、評価の観点を身に付けさせるために、

商品広告プレゼンテーション評価表		
会社名	氏名	
商品名	コーヒー無糖	
項目	評価内容	評価
企画力		5 4 3 2 1
題材	販売している商品の特長がわかるものであったか	○
概念	伝えようとするポイントがはっきりしていたか	○
	わかりやすい	○
	わかりやすい説明であったか	○
メディアの使用による表現		
文章・フレーズ	表現は印象に残るものか	○
画像	使い方は適切であったか	○
動画	使い方は適切であったか	○
音声	使い方は適切であったか	○
その他	表現に工夫が凝らされたか	○
取得力		
商品の特長		○
社会需要	どこに重点を置いたものか	○
金額		○
会社イメージ		○
購買意欲	購買意欲を持たせるものであったか	○
全体としての感想等	私は文章表現を中心にプレゼンテーションを作成しました。出来はなかなか良かったです。他の人のプレゼンテーションを見たことにより、今まで以上に情報機器を上手に使えるようにしたいと思っています。	
総合評価(1~5)	4	

図3 評価表(一部抜粋)

公正で偏らない評価ができていました。

また、教師の評価は、別の評価シートを用いて、行動観察や計画性、及び全体を通して取組の一貫性などによって行いました。

4 おわりに

これから情報化社会において、情報を的確に選択し、情報を整理・発信することが重要視されてくるであろうと考えられます。

この単元の学習計画を通して、生徒にプレゼンテーション技法を習得させる、計画と評価の参考にさせていただきたいと思います。

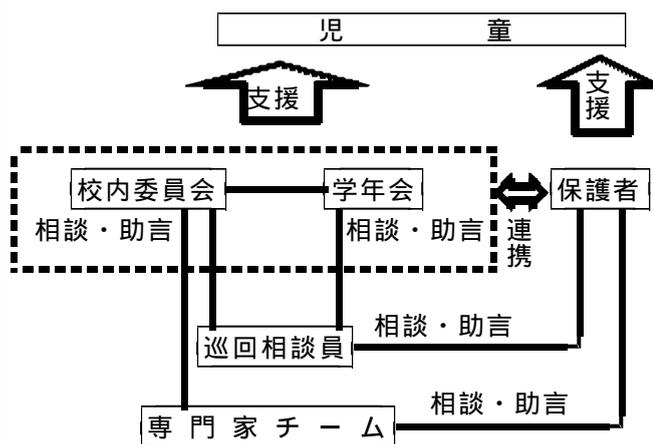
校内研究

～我が校の取組～

個をみつめ個を大切にす支援の在り方について
基山町立若基小学校 校長 志岐 豪勇

最近、LD、ADHD等の言葉をよく耳にします。学習の態度等において、「指示されたことをうまくこなせない」「なかなか理解できない」など、今までは、「本人のやる気の問題」「しつけの問題」などと考えられがちであったことが、研究が進むにつれて原因はそのようなことではないということが明らかになってきました。

このような折、「学習障害（LD）に対する指導体制の充実事業」という委嘱を文部科学省から受け、次のような体制をつくり、研究に取り組んでいます。



中心となる組織である校内委員会に、級外や養護教諭にも入ってもらい、子どもを様々な角度からとらえたいと考えています。また、LDについての理解を深めるために、教師による学習会や保護者を対象とした説明会を実施しました。さらに本校では、この研究を、一人一人の児童を見直すきっかけにしたいとも考えています。

LD児に対する理解を深めることを通して、個をみつめ個を大切にす教育的支援に取り組むことは、すべての児童が自分らしく豊かに学習していくことにつながると考え、学校、保護者、巡回相談員等が一丸となって研究に取り組んでいます。

豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒の育成
神埼町立神崎中学校 校長 井上 和洋

神埼町では、平成12年度から教育総合推進地域事業として、「かんじ合う郷土の風さき誇る未来への夢～21世紀をたくましく生きる子ども達の学力をめざして～」を研究主題に、小・中学校が連携した教育を推進し、家庭・地域社会が一体となって「子育て」に取り組む体制づくりを行っています。

それを受けて本校では、未来志向のまちづくり「ハーモニープラン」を推進し、自己を知り、他者に学び、未来の神埼町を担うひとづくりに貢献することを目指した総合的な学習「わが町かんざき～もの・ひと・みらい～」の在り方の研究を進めています。これまでの自分を振り返り、よりよく生きるためにと自分の力で課題を解決していこうとする生徒、自他の願いや思いを大切にし共に生きようとする生徒、郷土を愛し守り育てていこうと積極的に取り組む生徒の育成を目指し、3年間を見通した系統的・発展的なカリキュラム編成を行いました。

1年では国営吉野ヶ里歴史公園（もの）を通して郷土を知るとともに自分を見つめ、2年では町内事業所（ひと）との交流を通して視野を広げ、3年では城原川での様々な体験を通して自分の生き方や郷土神埼の在り方（みらい）について考えていきます。教育総合推進事業の組織である体験交流委員会が作成した地域人材バンクを活用するなど地域ぐるみの暖かい支援の中で、郷土の良さに触れ考える学習活動を通して、郷土を愛し守り育てていこうとする思いが膨らんでいくものと考えています。



2年生 町内事業所との交流

佐賀再発見シリーズ～豊臣秀吉にまつわるお話～

所員 堤 勝教

その1 大和にあるのにどうして「名護屋橋」という名前なの？

豊臣秀吉は、今から約400年前に名護屋城を訪れる際、大和町を通過しました。その日は大雨で、川上川は氾濫し、渡河は困難を極めたそうです。そこで、鍋島直茂は、急いで船橋を作り秀吉の軍を渡したといわれています。それ以来「名護屋橋」と呼ぶようになりました。明治時代になって、尼寺村と平野村が協同して橋を架設し、その時の標柱が、尼寺の「印にやく神社」に保存されています。(写真1)



写真1



写真2

その2 多久で腹痛を起こした豊臣秀吉？

多久市北多久町の多久高校の裏に、原巻坂(はばらざか)というところがあります。この名前の由来は、豊臣秀吉が名護屋城に向かう途中、この坂の入口で腹痛を起こし、腹巻きを巻いたと伝えられることからきています。腹痛を起こした秀吉が、腰を下ろしたというその跡には、えびすさんが祀られています。(写真2)

その3 浜玉町の「けいらん」を秀吉が食べた？

浜玉町の諏訪神社(写真3)の前では、「けいらん」という団子を売っています。「けいらん」は、地元の人々が5月の「お諏訪さんの春祭り」の際に作っていたものですが、諏訪神社で戦勝祈願を行った秀吉に、地元の人が献上したと言われています。名前の「けいらん」は、この団子を食べたならば戦争に勝つまでは本国には「帰らん」という意味から「けえらん」と言われるようになったと伝えられています。



写真3

あなたの身近なところにも、歴史上の人物にまつわるお話があるかもしれませんね。

平成14年度 教育講演会 『21世紀の学校像』

- 教育改革国民会議の議論を通して -



東京大学大学院教授

ふじた ひでのり
藤田 英典 先生

「教育改革国民会議」委員(2000年)

本県では、「教育県佐賀の再生」を目指した「教育ルネサンス21さがっ子育てアクションプラン」を立ち上げ、幼児期からの教育の充実、いきいき楽しい学校の再生事業の取組の一環として、11月には「佐賀県教育週間」を設定し、県民挙げての教育運動の一層の充実と発展を図ることになっています。そこで、従来、教職員・教育関係者を対象として行ってきた教育講演会を、今年度は児童・生徒の保護者にも開放して行うことにしました。

講師の先生は、「教育改革国民会議」の委員を務められた東京大学の藤田英典先生です。これからの学校の在り方について、教育改革国民会議での議論を踏まえた貴重なお話が伺えるものと期待しています。下記の要領で開催しますので、ふるって御参加ください。

- 1 期 日 11月12日(火)14:00～15:30
- 2 場 所 佐賀市文化会館中ホール

第4回 教育実践交流会

教育論文・マルチメディア教材募集及び交流会の開催案内



県内公立学校の教職員から校内研究や個人又はグループによる教育論文・マルチメディア教材を公募し、その内容を発表する機会を設け、研究・実践について交流します。*今年度からマルチメディア教材についても募集を始めました。

1 募集・結果発表

- (1) 募集期間 平成14年11月18日(月)～平成14年11月26日(火)
- (2) 結果発表 平成15年1月上旬
- (3) 表彰 教育実践交流会にて表彰を行います。

ア 教育論文部門

イ マルチメディア教材部門

2 教育実践交流会

- (1) 開催日 平成15年2月18日(火)
- (2) 内容 各分科会ごとに、発表・協議を行います。
詳しい案内は以下のURLへアクセスしてください。

http://www.saga-ed.go.jp/center_news/jissen21/youkou3.htm

スーパーアドバイザー事業についての御案内

教育センターでは、「スーパーアドバイザー事業」を行っています。本年度の担当は、臨床心理士の西村喜文先生と陣内咲子先生です。

お二人の先生方には、センターの相談員とタイアップしながら、「虐待」や「心身症」など、学校だけでは対応が難しいケースに対して、専門的なアドバイスをさせていただきます。

相談面接の対象者は、児童・生徒、保護者、学校の先生方等です。

相談面接の申込み方法

学校長を通じて、生徒指導係へ電話で申し込んでください。申込みを受けて、相談日の決定をします。 TEL:0952(62)5211 生徒指導係(内線341)



西村先生



陣内先生

研究調査事業の紹介

本教育センターでは、本県及び各学校が当面している教育上の課題及び今日的な教育問題や将来を見通しての課題等について調査・研究を行っています。これらの成果については、研究発表会や研究紀要等で紹介し、県内の教育の充実・改善に寄与しています。

「研究調査事業」の共同研究では、教科・領域等において、学習指導方法の改善や手立て、情報化に対応する教育等についての研究に取り組んでいます。

研究部会	研究委員会	研究主題
総合的な学習	小学校総合	「総合的な学習の時間」の評価に関する研究 - 「総合的な学習の時間」のカリキュラム改善を図ることを通して -
	中学校総合	
	高等学校総合	
特殊教育	特殊教育	学習障害児等の多面的な理解と総合的な支援の在り方に関する研究 - 学校や家庭における有効な対応を目指して -
情報化に対応する教育	情報システム利用	校内ネットワークの効果的な活用に関する研究 - 教育情報の共有やコミュニケーションの道具としての活用を通して - 学校間交流におけるインターネットを利用したVPNの教育的活用
	ネットワーク利用	